

愛知県経済の現状と見通し<2014年4月>

1. 総括判断

景気の現状	景気は堅調に推移している	基調判断の 前月との 比較(注1)	→	水準 評価 (注2)	☀️ ☁️
当面の見通し	消費増税の影響により一時的に弱い動きとなる見通し		→		☀️ ☁️

2. 個別項目の動向

個人消費	基調判断	堅調		
	基調判断の前月との比較	→	水準評価	☀️ ☁️
<p>《現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『管内大型小売店販売』より、個人消費の動向を販売者側からみると(図表1)、2月の名古屋市百貨店販売額は前年比+12.4%と7か月連続の増加。 ○品目別にみると、主力の衣料品(前年比+5.8%)が引き続き好調となったことに加え、貴金属、宝石、腕時計などの高級品を含むその他(同+35.5%)が大幅な増加。 ○一方、3月の新車乗用車販売(含む軽)をみると(図表2)、50,353台・前年比+13.6%と7か月連続の前年比プラス。 ○車種別にみると、普通車(前年比+8.0%)、小型車(同+5.7%)の伸びはやや鈍化したものの、軽乗用車(同+32.1%)は引き続き二桁の伸びとなるなど好調を維持。 <p>《見通し》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4月の消費増税後は駆け込み需要の反動や物価上昇による実質的な購買力の低下から、高額品を中心に一時的に下ぶれの動きとなる見通し。もっとも、雇用・所得環境が改善するなかで、消費マインドの落ち込みは限定的なものになるとみられ、賃金引き上げや夏場の賞与増加が見通せる状態となれば、個人消費は徐々に回復に向かう見通し。 ○乗用車については、消費増税前の駆け込み需要の反動がみられることから、当面の販売は鈍化する見通し。 				
<p>図表1 名古屋市・百貨店販売額<前年比></p> <p>(資料) 中部経済産業局「管内大型小売店販売」 (年/月)</p>				
<p>◆2月 名古屋市・百貨店販売額</p> <p>306億円 前年比+12.4%(7か月連続の増加) ・うち衣料品 前年比+5.8%(4か月連続の増加)</p>				
<p>図表2 新車乗用車販売台数<前年比></p> <p>(資料) 日本自動車販売協会連合会「自動車登録統計情報」 (年/月)</p>				
<p>◆3月 新車乗用車販売台数<含む軽></p> <p>50,353台 前年比+13.6%(7か月連続の増加)</p>				

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗️: 上方修正、↔️: 据え置き、↘️: 下方修正を示す。例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる。したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、☀️: 晴、☁️: 晴～曇、☁️: 曇、☁️⚡️: 曇～雨、⚡️: 雨、を示す。

お問い合わせ先	三重銀総研 調査部 別府
	電話: 059-354-7102

雇 用 情 勢	基調判断	回復している		
	基調判断の前月との比較	→	水準評価	☀️
	<p>《現状》 ○2月の求人倍率をみると(図表3)、有効求人倍率(季節調整値)は1.53倍、新規求人倍率(同)は2.41倍と2か月ぶりにそれぞれ上昇。 ○愛知県は有効求人倍率で全国1位、新規求人倍率で全国2位となるなど引き続き全国レベルでも高水準で推移。</p> <p>《見通し》 ○消費増税による販売、生産の落ち込みが予想されるものの、景気回復の動きが続くなかで幅広い業種で求人が増加する見通し。</p>			

図表3 有効・新規求人倍率<季節調整値>

(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」

◆2月 求人倍率<季節調整値>

- 有効求人倍率: 1.53倍
前月差+0.04ポイント(2か月ぶりの上昇)
- 新規求人倍率: 2.41倍
前月差+0.20ポイント(2か月ぶりの上昇)

企 業 活 動	基調判断	堅調		
	基調判断の前月との比較	→	水準評価	☀️ ☁️
	<p>《現状》 ○1月の鉱工業生産指数をみると(図表4)、前年比+10.7%と5か月連続のプラス。県内の生産動向に大きな影響を与える輸送機械(同+8.1%)の生産増加が主因。</p> <p>《見通し》 ○愛知県の鉱工業生産に大きな影響を与えるトヨタ自動車の国内生産動向をみると、2月は6か月ぶりに前年比マイナス。今後、消費増税に伴う販売面のマイナスが生産動向に影響を与える見通し。</p>			

図表4 鉱工業生産<前年比>

(資料)愛知県県民生活部統計課「愛知県鉱工業指数」

◆1月 鉱工業生産

- 前年比+10.7% (5か月連続の上昇)
- うち輸送機械 前年比+8.1% (5か月連続の上昇)

輸 出	基調判断	回復している		
	基調判断の前月との比較	→	水準評価	☀️ ☁️
	<p>《現状》 ○2月の名古屋港通関輸出額をみると(図表5)、前年比+5.1%と14か月連続の増加。もっとも、伸び幅は11か月ぶりに一桁台に。 ○仕向地別にみると、米国向け(前年比+4.5%)は一桁の伸びとなったものの、西欧向け(同+13.0%)、アジア向け(同+11.9%)で二桁の伸び。</p> <p>《見通し》 ○一般機械は中部5県主要メーカーの海外受注高(2月:前年比▲9.6%)が5か月ぶりのマイナス。地域別にみると、欧州向けは好調を維持したものの、北米向け、アジア向けでマイナス。もっとも、海外経済の好調により引き続き海外需要は底堅く推移する見通し。</p>			

図表5 名古屋港通関輸出額<前年比>

(資料)名古屋税関「管内貿易概況」

◆2月 名古屋港通関輸出額

9,289億円 前年比+5.1% (14か月連続の増加)